

町田市立図書館メールマガジン（2026 年 8 月 15 日号）

みなさまこんにちは、町田市立図書館です。
メールマガジンを配信します。

図書館職員おすすめ本

『おいしい雑草図鑑』

471.9 マ／前田 純／扶桑社／2025 年

お散歩好きな方、とくに子育て世代にもお勧めだ。こどもは食いしんぼう。お散歩で目に付いた野草を「これ食べられるんだよ」と教えるだけで、何気ない道端の風景が彩りある記憶に変わる。（実際に食さなくても。）そんな私の雑草食歴もほぼ年齢だ。漢字も読めない4～5歳で「美味しんぼ 32」を見て、「コレはきっとおままごとで見つけたアレだ！」とひらめき、親も止めるなか ” 野蒜 ” を調理して食べてみるほどだった。他にも口に出来るものは何でも食べていた気がする。

でも大人になって驚いたのが、梅は青いまま食すと中毒を起こすと知ったことだ。ちなみに私は食べるまではしていなかった…。なぜだろう、本能や ” 野山にまじりて ” 育った感覚として感じるものがあったのかもしれない。

八百屋に並んでいるじゃがいもですら、緑色だったり芽の除去が甘かったりして中毒症状を起こす事例は毎年必ず発生している。知らないことは避けられない。知識を得て回避するのも大事だが、知らない時に「身近な危険」を感じ取って「このまま食べて平気だろうか？（調べよう!）」という発想や感性をはぐくむのにも、とてもお勧めだ。類書もぜひ手に取ってみてほしい！

（PN 野生児きのこ（のらきのこ））

『マンションポエム東京論』

361.7 オ／大山顕／本の雑誌社／2025 年

「ときめきをシェアする摩天楼」「誇り高い、迎賓の空間。」「都の中枢を住まう誇り。」…

本書に紹介されているこれらの文章は、中吊り広告や折り込みチラシで目にするマンション広告のコピーである。筆者はこれらをマンションポエムと名づけ、分析を行っている。

ただ言葉を面白がるだけではなく、いつ頃からこれらの広告が目立ちはじめたのか、また、時代によりどう傾向が移り変わってきたのかを知ることができる。1600 件を超える広告から頻出ワードを取り出した結果、都市により使われる言葉が異なるという点も興味深い。

その他、様々な考察から一般的な東京のイメージを浮かび上がらせる本書。読むことで、いつもの風景がほんの少し楽しくなるかもしれません。

（PN 書架あたり）

『子どもと本』

019-マ／松岡享子／岩波書店／2015 年

皆さんは、長い長い年月忘れていたことを、ある時ふと鮮明に思い出したりすることはないだろうか。思いもよらぬ時に「……あ……。」と。

幼いころ自分がどんな本を読んでいたか、それらをどんな場所でどんな息づかいをもって読んでいたか。日の陰りと遠くから聞こえる声…、そしてその時の心の揺れも…。

易しくわかりやすい文章で、筆者は私たちに自身の経験を伝えてくれている。それは、その人の人柄そのものであり、「何も案ずることはない、自分の信ずる道を歩いていきなさい」と励ましてくれているようだ。筆者は惜しまれながら 2022 年に亡くなったが、最期の時期を迎える前に、自身の人生と共に、子どものために働く人に向けてのメッセージをこの本でまとめあげた。だが、そのような人々だけでなく今を生きる私たちすべてに向けて、人間として大切なことは何かを静かに語りかけてくれている。

(PN ミカマカラスアゲハ)

『かなしいごはん』

596. 04-イ／井上かなえ／青月社／2026 年

空回りした日に作った料理や、こんなはずじゃなかった料理ができた日の食卓など、切ないごはんの記憶が誰にでもありませんか？

この本に描かれているのは、ごはんを通して日常を描いた 40 の短編です。ページをめくりながら深く共感し、料理が完成していく過程を想像するだけで、ぽかぽかと温かくなっていきます。まさに、「レシピから感情を読む」という新たな読書体験ができる一冊です。

著者は忙しくても手早く作れて美味しいレシピを提案する料理研究家。そんなプロの視点で綴られる丁寧な料理の描写を、じっくり味わいたくなる極上のエッセイです。

=====

町田市立図書館

ホームページ : <https://www.library-machida.tokyo.jp/>

X : https://x.com/machida_library

◆メールマガジンのバックナンバーは、町田市立図書館ホームページからご覧いただけます。

◆メールマガジンの配信停止、メールアドレスの変更等は、町田市立図書館のホームページからお手続きください。

=====

2026 年 8 月 15 日発行